

平成 28 年度西部支部 7 月見学会報告 —我々にまかせてほしい印刷が、ある（見える化企業 2 社に見る印刷会社の未来）—

市岡 義和*

Yoshikazu ICHIOKA*

（一社）日本印刷学会西部支部は平成 28 年 7 月 29 日（金）に、大阪府東大阪市にて工場見学と講演を開催した。

タイトルは昨年度同様「我々にまかせてほしい印刷が、ある」とし、サブタイトルは「見える化企業 2 社に見る印刷会社の未来」とした。

訪問先は 2 社である。印刷作業効率を見える化し最適化を推し進めている作道印刷株式会社（東大阪市水走 1-12-20）と、印刷関連の各種トラブルを全社で見える化しミスロス対策を至上経営課題とする北東工業株式会社（東大阪市菱江 4-6-44）である。

総勢 26 名が午後 12 時 40 分に近鉄吉田駅改札口に集合、マイクロバスに乗り作道印刷（株）に向かった。

作道印刷（株）は、昭和 12 年創業の老舗である。一昨年、本社工場を建て替えて城東工場を併合し、全生産設備を集約した。その際に 3 階建てフロアを立体的につなぐ自動倉庫を導入するなど（写真 1）、動線の分析を行った結果、短納期化が実現できているとのこと。

作道印刷（株）では、6-7 人の 4 グループに分かれて約 1 時間の工場見学を行った。1F 製造フロアでは、4 色・5 色のオフセット印刷機が稼働しており、印字サンプル確認

やニスの粘度チェックなどの現場を見学した。2F 事務所フロアでは、印刷物の貼り・検査工程を見学した。隣接する事務所では、刷版の作成やインク調合の他、DTP および厚紙印字サンプル（パッケージ等）を試作してユーザに提案する現場などを拝見した。

グループごとに社員の方に引率いただき、ご説明いただいた。装置オペレータの方には作業中にも関わらず、参加者の質問に手を止め、あるいは印刷サンプルを引き出して回答していただくなど非常に丁寧に対応いただいた（写真 2）。



写真 2 工場見学の様子（作道印刷）



写真 1 自動倉庫（作道印刷）

その後、3F 会議室にて 45 分間に亘り、作道孝行社長に「見える化」の取り組みに関しご講演いただいた。

製造原価の引き下げのため、内部コスト、特に時間コストに注目しているとのこと。仮にある作業に 5000 円 / 時のコストがかかる場合、2 万円の受注作業を漫然と行うのではなく、「4 時間で仕上げる」ことを目標にするなど、損益分岐点を明確にしているとのこと。

また、これらの数値は社内でオープンになっているため、たとえば残業することが損に繋がる（残業分は追加コストが発生する）ので定時に仕上げようという気づきを社員

*（株）SCREEN ホールディングス
〒 612-8486 京都府京都市伏見区羽東師古川町 322

が持つようになるなど、社内で意識改革が行われたとのこと。

実際、現場を綺麗に保つための毎朝清掃が行われていることや、事故ゼロ日数の掲示など、社員による自主発案が数多く実現していることに参加者が感銘を受けている様子であった。

次に、再びマイクロバスで20分ほど移動し、北東工業(株)を尋ねた。

北東工業(株)は、昭和47年創業。平成25年に水なし印刷を実現しており、同年、Japan Color 認証を受けている。稼働している印刷機7台のうち、6台が水なし印刷機である。平成27年にはLED-UV水なし印刷の実運用を開始している(世界初)。

水なし印刷への切り替えにあたってはインキメーカーや販社らの多大な協力があつたことや、水あり印刷に比べて印刷機の調整・整備に非常に時間をかけるようになったことなど、現場の声を伺うことができた。

特に、水あり印刷時は、装置に問題があつても職人技により水で調整できていた(できてしまっていた)が、水なし印刷では装置状態が印刷結果に出るようになった。それに対し、装置を確実に調整すれば経験の少ないオペレーターでも高品質印刷を実現、維持できるため、教育コストが下がり印刷事故も減り、作業効率も向上した、と良いことづくめ、とのことであった。

工場見学の後、約40分間、東條秀樹社長によるミスロス削減のための取り組み紹介が行われた。

特筆すべきは、全社員が閲覧できるシステムに「すべてのトラブルを」「発生後1時間以内に」登録することと、全案件に社長が目を通しておられるとのこと。そのためのシステムが整備されており、当日はトラブル対応のフロー実例をご紹介いただいた。

「ミスロス対策にかかる手間が大きすぎるのではないか」という質問に対し、「ここまでやらないと実態が見えてこ

ない」という実感のこもった回答をいただいた。また、迅速なトラブル報告により、これまでは手遅れになっていたケースでもいち早く手を打つことができ、お客様の信頼回復につながった事例もあるとのこと。

システムの運用にあたっては、トップダウンで根気よく行ったことや、トラブル報告では感情が入らないように意識しているなど、苦勞が忍ばれるエピソードを伺うこともできた(写真3)。



写真3 東條社長によるご講演(北東工業)

今回の見学会では、原価抑制に向け意識を改善するための見える化、ミス・ロス・事故から弱みを掴み、改善することで強みに変えるための見える化という両社長の強い経営指針を社員が体現しており、これからの印刷会社を取り組むべき姿勢を感じることができた。どちらの印刷会社も、社内に独自の取り組みが溢れ、1時間では見学時間が足りないと参加者から声がでるほどであり、良い見学会となった。

末筆ながら、どちらの印刷会社でも訪問時も退去時も出迎え見送りをいただき、見学中は常に挨拶をしていただいたことが印象深い。

改めて、両印刷会社に感謝の意を表したい。